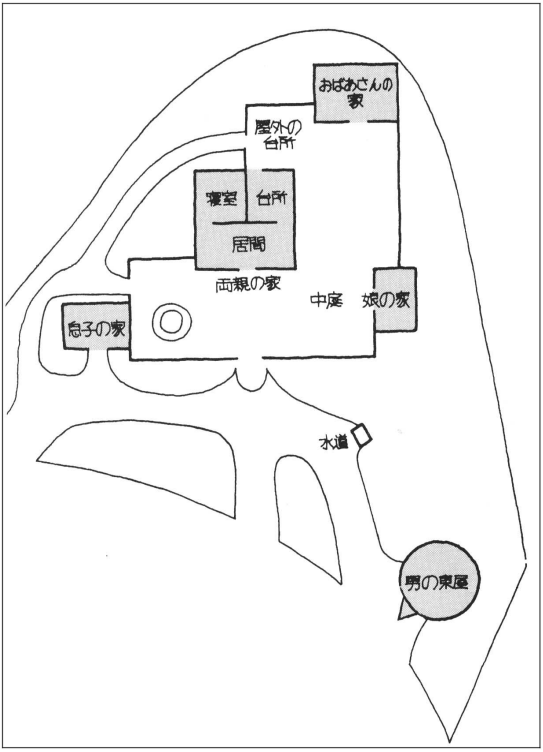
南アフリカ ンデベレの家

アフリカの最南端、南アフリカ共和国の内陸部、標高900～1500mの高原地帯に住む民族の家屋です。ンデベレの人びとは、もともとは広大なサバンナでウシやヒツジを飼う牧畜民でしたが、現在では大部分の人がプレトリアやヨハネスブルクといった都市や農場で働いています。



【創出された装飾文化】

ンデベレは、都会近くに住んでいたため、早い時期から白人文化の影響を強く受け、昔ながらの習慣を失い、新たな文化を創り出していった民族です。

色あざやかな幾何学模様の壁絵をもつ家や、ガラス製のビーズ細工の装飾品をつけ、アクリル製のカラフルな毛布をまとう民族衣装などは、近隣の他の民族には見られないンデベレ独自の文化です。

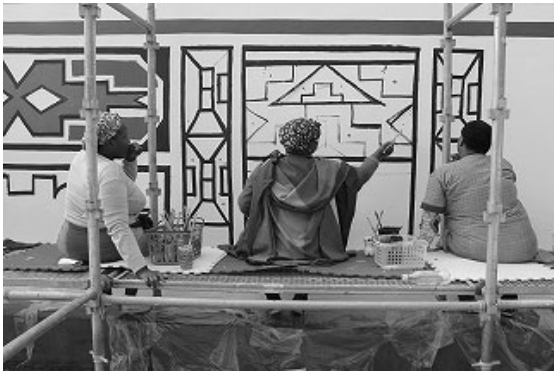
【壁絵は民族の自己主張】

ンデベレの壁絵の特徴は、あざやかな色を大胆に使った幾何学模様を左右対称に配置するところにあります。こうした壁絵は南アフリカだけでなく、世界でも珍しいものです。壁絵は、「ここに住んでいるのはンデベレです！」という自己主張のあらわれとなっています。

壁絵を描く女性たち　…２０１６年の壁絵修復から

壁絵は、女性たちの手によって描かれます。２０１６年の秋には、南アフリカより来日したンデベレ人女性により、２１年ぶりに壁絵が美しく修復されました。このときは最初の復元でも描き手として来日したレアさんをリーダーとして、年齢の異なる４人が協力して作業を進めました。ここでは、簡単に修復の様子をふりかえってみましょう。

①リーダーのレアさんがデザインを決め、壁に軽く粗い線を描きます。次に、線で囲まれた部分に塗る色を少しだけ目印としてつけておきます。使う色に決まりはなく、描き手のセンスで選びます。



▲目印を描くレアさん（中）と描き手たち

②ほかの描き手たちは、目印をたよりに枠内の色を塗っていきます。
塗料は水性ペンキを使います。比較的短時間で乾くため、重ね塗りがしやすい特徴があります。

③粗い線を、太くまっすぐな線へと引きなおします。このとき、定規はいっさい使いません。

▲線をととのえるローズさん

④はみ出してしまったり、とちゅうで線の太さが変わってしまったりすると、あとから重ね塗りをして修正します。
輪郭をととのえるのは最年長のローズさんが担当しました。このように細かい部分までこだわった作業によって、壁絵が美しく仕上がりました！